IXC

出荷前QA検収サービス ご利用の手引き

候補ビルドの準備から結果の反映と再判定まで

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

外部検収に渡すビルドと主要フローを準備し、出荷日程に検証と修正の時間を組み込みます。

出荷を控えた製品責任者、納品物を受け入れる発注担当者

目次

01 今回の出荷に必要な検収を決めます 3

02 実行できる準備物を渡します 4

03 検証と修正の時間を別々に確保します 5

04 範囲と完了条件を合意します 6

05 結果を次の行動に移します 7

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

今回の出荷に必要な検収を決めます

出荷前QA検収は、リリース候補ビルド一つを合意した範囲で確認し、出荷判断を文書に残すサービスです。IXCは、基本範囲のビルド一つと製品領域一つ、主要フロー三つ、シナリオ三十件を5営業日で検証します。

現在の状況	今回確認すること	適した進め方
大きな機能の出荷を控えている	候補ビルドの主要フローと例外	出荷前検収
開発の納品物を受け入れる	合意した要求事項と実行結果	受け入れ範囲を中心とした検収
デプロイのたびに人手が足りない	継続的な回帰テストと欠陥管理	期間型のQAアウトソーシング
コードの動作規則が不明確	要求事項の復元と漏れ	復元作業を含めた範囲の協議

検収目的のブリーフ

項目	今回の出荷の条件	確認担当
出荷・受け入れの目的と予定日		
候補ビルドと変更領域		
壊れたら出荷を延ばすフロー		

金額と範囲は着手前に書面で決めます。基本の検収では、合意した修正分を一度再テストします。より狭い構成や広い構成は、製品領域・フロー・シナリオ・再テストをそれぞれ決めます。現在の構成はサービスページでご案内しています。

実行できる準備物を渡します

接続先のURLがあっても、権限や試験用データがなければ検証は始まりません。実際の検収担当者がログインし、主要フローに到達できたかを着手前に確認します。パスワードと接続キーは準備表に直接書かず、合意した受け渡し経路で提供します。

着手準備の点検表

準備物	場所・識別値	確認担当	準備状態
ビルド・アプリ版・デプロイ環境			
ロール別のテストアカウント・権限			
試験用データ・初期化の方法			
外部連携のテスト環境			
要求事項・画面・ポリシーの文書			
最近の変更・既存の欠陥一覧			

記入例

販売者と購入者のロールがあるサービスでは、二つのアカウントを用意します。購入完了のデータと取消可能なデータを区別し、初期化の担当を決めます。決済連携では、テストキーと本番キーの名前・用途を区別した一覧だけを共有します。

文書のない領域では、動作を復元する対象を明示します。期待結果が決まっていないシナリオは、実行前に製品担当と基準をすり合わせます。アクセスの失敗は準備未完了として記録し、実際の検証時間と待機時間を区別します。

検証と修正の時間を別々に確保します

出荷予定日から、承認会議、修正確認、開発側の修正、検証、アクセス準備の順に逆算します。検証の5営業日が、修正と承認まで含めた出荷までの全期間を指すわけではありません。各段階の担当と完了条件を日程に入れます。

出荷日から逆算する日程表

段階	予定日・期間	担当	完了条件
アクセス・データ準備			主要フローへの到達確認
候補ビルドの確定			バージョンと変更範囲の記録
検証の実行			合意範囲の結果作成
欠陥修正			修正ビルドと変更一覧の引き渡し
再テスト・判定			対処結果と残存リスクの検討
リリース承認			判定・条件・承認の記録

検証の途中で新しいビルドを渡す場合は、既存の結果への影響を先に確認します。対象ビルドを変える決定、再実行する範囲、日程への影響を併せて記録に残します。社内QAが並行する場合は、領域と重大度の基準、欠陥の登録先を統一します。

> **日程が足りないときに決めること**
>
> 出荷日を守れるかどうかだけを問うのではなく、主要フロー、除外する範囲、修正できる期間を一緒に決めます。実行できなかった項目は次の検証計画に名前を挙げて残し、判定文書でも区別します。

範囲と完了条件を合意します

シナリオは、ユーザーの行動と確認する結果で書きます。「ログイン画面の確認」のような機能名だけでは、合格基準として十分ではありません。正常フローに加え、権限不足、入力エラー、外部呼び出しの失敗など、必要な例外条件を定めます。

検収範囲の合意表

フロー・シナリオ	環境・前提	期待結果	含む・除外
記入例： パスワード再設定	期限切れの試験用リンクを使用	変更が拒否され、再申請の経路を提供	含む

合意項目	着手前に決める質問	残す記録
出荷を止める欠陥	どんな失敗の影響なら保留にしますか？	重大度と判定基準
再テスト	どの修正ビルドを、どこまで見ますか？	修正確認・影響範囲
別枠の検証	負荷・復旧・認証適合性まで必要ですか？	別枠の範囲と担当
範囲変更	新しい要求事項は誰が検討しますか？	変更・金額・日程の合意

出荷前検収が扱うのは、実行結果と判定の根拠です。コード品質の評価やセキュリティ認証の適合性判定とは、範囲が異なります。必要な検証を名前で区別しておけば、任せる仕事と受け取る結果が、契約期間を通じて同じ意味に保たれます。

結果を次の行動に移します

検収の結果は、テストケース・シナリオ資産、欠陥分類と判定基準、リリース判定レポートとして残ります。レポートでは、まずビルドと合意範囲を確認し、そのうえで未解決の欠陥、未検証範囲、条件と再判断の対象を読みます。

判定	レポートで確認すること	後続の記録
READY	合意した出荷基準を満たす根拠	承認記録と運用確認項目
READY WITH CONDITIONS	出荷に必要な条件と残存リスク	条件の担当・確認時点・証拠
HOLD	現時点で保留とする根拠	解決項目・再検証範囲・再判断の時点

結果反映の計画表

欠陥・未検証・条件	対処担当	完了・再確認の時点	紐づける証拠

IXCのリリース準備度レビューでは、検証結果と除外範囲、前提と残存リスクを検討したうえで、シン・ミンギュCTOが署名したリリースメモをお渡しします。様式ファイルの判定と署名欄は、実際の検収までは空欄のままにしておきます。

> **検収終了の確認**
>
> 文書と元データ、テストケースの所在を確認します。保留項目と条件付き項目の次の担当を指定すれば、検収結果がリリース会議の記録と次の実行計画につながります。

発行・ご利用について

候補ビルドの日程と主要フロー、準備済みの文書をもとに、検証・修正・再判定の日程を貴社とともに検討します。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/pre-release-qa

www.ixc.co.kr/ja/assets/release-readiness

参考資料

IXC リリース準備度レビュー：提供範囲と構成

https://www.ixc.co.kr/ja/services/pre-release-qa

ISTQB CTFL v4.0.1：開始・終了基準と完了報告

https://istqb.org/wp-content/uploads/2024/11/ISTQB_CTFL_Syllabus_v4.0.1.pdf